

お知らせ

原子力災害における放射線被ばくを考える(名古屋)

開催日:平成 23 年 10 月 9 日(日)

時 間:13 時 00 分 ~ 17 時 00 分(開場:12 時 30 分より)

場 所:名古屋第二赤十字病院(八事日赤) 研修ホール
名古屋市昭和区妙見町 2 番地 9

定 員:300 名(参加費:無料)

主 催:日本放射線技術学会中部部会, 愛知県放射線技師会

協 賛:日本保健物理学会, 日本放射線安全管理学会, 千代田テクノ

趣 旨:東日本大震災に伴う福島第一原発事故以降、土壌、水道水、食物の放射性物質による汚染が報道され、一般市民の間に放射線被ばくに対する不安が広がっている。医療現場では患者の被ばくに対する関心が高まり、医療被ばくと公衆被ばくを詳細に説明する機会が増えている。しかしながら、患者の質問に対応する我々診療放射線技師の間でも被ばくに対する誤解と混乱が生じており、被ばくの分類、形態および単位などの基礎的な事項を再確認する必要がある。

今回の事故以降、関連学会、団体は除染や環境測定などの活動とともに、ホームページなどを通して情報を提供している。これらの情報を整理し、放射線被ばくの基礎的な事項と原子力災害の最新の知見から、事故時の放射線被ばくに関する一般市民および患者の不安を理解する。

— プログラム —

基調講演

座長:名古屋第二赤十字病院 有賀 英司

「汚染の状況と健康への影響—アドホック委員会報告—」

日本放射線安全管理学会放射性ヨウ素・セシウム安全対策アドホック委員会委員長
名古屋大学名誉教授 西澤 邦秀

教育講演

座長:金沢大学附属病院 飯田 泰治

(1)「放射線防護について考える —現地との交流を通して—」

セントメディカル・アソシエイツ LLC

国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究センター 広藤 喜章

(2)「医療現場におけるリスクコミュニケーション」

浜松医科大学医学部附属病院 竹井 泰孝

総合討論

座長:藤田保健衛生大学 教授 鈴木 昇一

企画担当:日本放射線技術学会中部部会 放射線防護研究会, アンギオ研究会
愛知県放射線技師会 学術部



会場案内図

交通機関のご利用について

- 名鉄・JR・近鉄「名古屋」駅より
地下鉄東山線「本山」経由乗り換え、名城線「八事日赤」駅下車
- 地下鉄鶴舞線「八事」駅より
地下鉄名城線乗り換え、「八事日赤」駅下車
- 名鉄・JR「金山」駅より
地下鉄名城線乗り換え、「八事日赤」駅下車
市バス金山 12号系統「名古屋大学」行、「八事日赤病院」下車
- 地下鉄東山線・名城線「栄」駅バスターミナルより
市バス栄 18号系統「妙見町」行、「八事日赤病院」下車

※ 駐車券の割引はございませんので、公共交通機関をご利用下さい。